問題を克服する年に

津別町長
佐藤多一

町民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。いつもの年とは異なり、新型コロナウイルスの収束がいまだ見通せない中、不安を感じる令和3年の年開けをお迎えのことと思います。

昨年1月、中国武漢市から帰国した30代の男性が、国内最初の感染者として発表され、現在、感染拡大は第3波を迎え、感染者数はとどまるところを知りません。第1波の頃から見ますと、人々の警戒心がやや薄れているようにも感じますが、特に体力が落ちた高齢者の死亡率が上昇しているため、今一度しっかりした予防を心掛けて欲しいと思います。

さて、平成30年7月に策定しました「津別町複合庁舎建設等まちなか再生基本計画」に基づき、今年3月に役場複合庁舎と消防庁舎が完成します。この建物は、計画の第一段階にあたるものですが、2棟の完成により町並みの変化が少し見えてくると思います。この事業の目的を計画書に次のように記載しています。

「近年は、急速な人口減少、少子高齢化、商業機能の低下、空き家・空き店舗の増加、及び地域活力の減退により中心市街地のにぎわいが低下しています。(略)町民、地元企業、まちづくり団体、行政等が10年後のまちなかの将来像を共有・連携しながら効果的かつ持続的にまちづくりを推進し、まちなかの活性化を図る」としています。

コロナ禍の中、東京の人口に変化が出始めたことが報道されています。はじめて転出が転入を上回ったようです。リモートによる仕事の形態変化やふるさと回帰が進み始めているようですが、何も自然は遠くの田舎にばかりあるものではなく、近隣県の市町村にもあります。仮に、彼らが津別町への移住を選択する場合、一体何を基準にするのでしょうか。自然環境や人の温かみなども勿論あると思いますが、仕事、住宅、医療、子育て、教育、買い物環境など居住に必要な基礎的インフラが整備されているかどうかも大きなポイントになると思います。

ずいぶん昔になりますが、吉幾三が「テレビも無エ、バーも無エ、俺らこんな村いやだー、東京へ出るだー」と歌っていました。これが「インターネットも無エ、病院も無エ、商店もすく無エ」では、この町で生まれ住む人も含め、住み続けることに躊躇するのではないでしょうか。そうした思いから、まちなかを再生しいていくことは、津別町が持続可能な町であるための必要な計画であると考えます。

また、5Gやソサエティ5.0と呼ばれる時代に突入した今、世界はスピードを上げながら変化しています。立命館アジア太平洋大学学長の出口治明先生は著書の中で、「社会の変化のスピードが速いので、知識はどんどん陳腐化する。今後は考える力のウエイトが圧倒的に高くなる」と述べています。続く未来のためには、噛みしめるべき言葉だと思います。

結びに、昨年の干支は「子（ね）」で、ねずみ算という言葉から子孫繁栄を期待しましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を連想させる言葉となってしまいました。

今年の干支は「丑（うし）」ですが、「我慢」や「発展の前振れ」の年と言われています。「問題を克服する年」であることを願いつつ、本年が希望の持てる年になりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

持続可能なまちづくり

津別町議会議長
鹿中順一

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年は、世界中を感動の渦に巻き込む、4年に1度のオリンピックが開催されるはずの年でありました。日本では、1998年長野オリンピック以来22年ぶり、東京では1964年以来56年ぶりとなる、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定でありましたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、近代オリンピック史上初めて1年延期されました。

一昨年12月、中国において原因不明のウイルス性肺炎の患者が相次ぎ確認され、翌年1月には関連するニュースが日本でも報道されるようになり、当時、日本国内では対岸の火事といった受け取られ方でしたが、感染が世界に拡大していく中、1月16日に日本国内でも初の感染者が確認されたと発表されました。

4月には、国内での新型コロナウイルスの感染拡大により、国は緊急事態宣言を行い、不要不急の外出自粛、学校の休業、店舗の休業などが要請され、昨年はこれまでにない我慢と自粛のゴールデンウィークを過ごされたのではないでしょうか。

長期化するウイルスとの闘いに、新北海道スタイルの定着と実践、生命と暮らしを守ることを最優先に、感染拡大防止の徹底と社会経済活動の両立を目指す取り組みを進めていかなければなりません。

本町においても、町民の生命、地域を守るため、感染対策、経済対策、企業支援などあらゆる対策が講じられているところでありますが、皆様におかれましても、自分自身や大切な人を守るため、まずは手洗いなど感染対策をしっかりして、この難局を乗り越えていきましょう。

感染症の収束が見通せない中で、ワクチンの開発が注目されているところですが、ウイルスに打ち勝ち、今年は是非とも安全に2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、全世界に希望と感動が与えられることを願っております。

さて、本町では、平成30年7月に「津別町複合庁舎建設等まちなか再生基本計画」が策定され、歩いて暮らせるコンパクトなまちなかの実現をめざし、昨年から役場庁舎と健康福祉センターの複合庁舎の建設が始まり、まもなく本年3月には完成し、5月からは新庁舎での業務が開始されます。また、消防庁舎も建て替えが進められており、津別町の町並みが将来に向けて大きく変わろうとしています。

更に、今後においては、現役場庁舎から旧農協事務所までのコミュニティゾーンとする一帯に、まちなかに賑わいを創出し地域交流の場となる、買い物、図書館、交通拠点の一体的な整備が計画されており、議会においても協議がされているところであります。

今後は、町民の皆様の声が町政に反映され、豊かな暮らしが実感でき、持続可能なまちづくりを進めていくため、議会として責任と役割を果たしていく所存でありますので、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が明るく希望の持てる一年となりますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げまして、年頭のごあいさつといたします。